

恵みと真理のニュース



2016 年 2 月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

【証】

神様は患乱の日に大きい力と慰めになってくださり、

伝道することが私の人生で一番大きい喜びとなるようにしてくださいました



幼いからイエス様を信じ生きて来た私は1993年イエス様を信じない人と結婚して信仰生活に大きい危機がありました。旦那を伝道して一緒に信仰生活をすればよいと単純に思いました。しかし、思ったとおりに出来ませんでした。姑も酷く偶像崇拜をするのを結婚してから知りました。

日々念仏を誦してお守りを家のあちこち貼っておいて、祭祀を捧げる部屋まで作りました。さらに“あなたが、イエスを信じるから碌なことはないよ。”など私に様々な悪い言葉を言って呪って毎日が苦しかったです。

しかし、私は威嚇にも屈しなかったです。言葉では表現できないほど大変でしたがけして逃げなくて姑が悔い改めるように助けてくださるよう神様に涙の祈りをしました。断食祈りや徹夜の祈りもして期間を決めて祈りました。恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。(イザヤ41:10) 祈りをする時ことに神様は私に恵みを与えてくださって聖霊で慰めて忍耐する力も下さいました。

そんな状況でも教会に行って礼拝中心で生きる私に当会長の牧師の説教を通して私の信仰を強くしてください、自分の力では担えられない試練と迫害や恐れを勝つようにしてくださいました。そのように最後まで祈って神様を仰ぎ姑が悔い改めてイエスの前出るように導いてくださいました。ある日から旦那の事業が悪くなって経済的にも苦しくなりました。弱り目に祟り目に旦那が病気になるすぐ天国に召されました。私は旦那が亡くなった悲しみと経済的な苦難を担えないといけませんでした。周りで多くの方々が慰めてくれましたが私には大きい慰めと力にならなかったです。

主はこう言われる。創造者、主、すべてを形づくり、

確かにされる方。その御名は主。「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。(エレミヤ33:2,3) 御言葉を通して祈って世から得られない慰めと平安を経験しました。

そのように祈って生きる中で恵と摂理で就職しました。営業する仕事を探して熱心にしましたが“あなたの業を主にゆだねれば／計らうことは固く立つ。”(箴言16:3) 御言葉を信じ神様が下さる知恵と熱心で行なったら全ての事を助けてくださり職場でも高くしてくださいました。

私がやる仕事は人に会って営業する事でストレスをたくさん受けるしかなかったが人を見なくてただ主だけを望んで仕事をしました。主の御言葉だけを従って行なうように決心して熱心に実践しました。

いつも 喜んでいなさい。 絶えず 祈りなさい。 どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト。イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。(テサロニケの信徒への手紙一 5:16~18) 御言葉の通り従順するように聖霊に満たされるように主を喜ばせるように祈りました。そうするときに神様は私の道も開いてくださり驚くほど実りを与えて下さり神様に栄光捧げるようにしてくださいました。

私は神様の恵みと愛に感謝して職分と伝道に頑張りました。職員と顧客の対象で伝道しました。職場のことで礼拝を疎かするのは理解できません。人生に優先順位を主を支えるところに置くこと職場と伝道全部担えるように恵みを与えてくださるのを体験したからです。

職場と家庭のことで忙しいなかでも私が主の事に集中して神様の福が望んで土地と家も買うことができました。

涙が出るほど神様の愛に感謝しました。“何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。(マタイの福音書6:33) という御言葉を考えながら伝導に全身全力

をしました。そんな私を喜んでくださり知恵と胆力を下さり多くの実りを得ました。主の恵で当会長牧師から伝道賞ももらって区域セミナーことに毎度伝道賞ももらって嬉しかったです。新しい聖殿が入党する前、引越しを3回する中でも熱心に伝道して区域員が10名から20名になるほどリバイバルを与えてくださって伝導する喜びが充満でした。

母が私と家族のため神様を支える信仰を見せてくれました。母は高齢にも関わらず熱情を持って主を支えひたすら礼拝と伝道に力を尽くします。

母が祈って神様の恵みが望まれ姉が教役者になり聖徒を仕え献身しました。私も主の中で幸せな人生を生きようになりました。その美しい信仰を受け継いだ娘も安定的な信仰で就職し結婚する人と今日教会学校で教師で熱心に奉仕しています。

私の一つ希望は、今よりもっと主に献身して忠誠をするのです。いつでも福音を尽くして伝道するのが自分の使命であり残った人生の目的であり喜びだと告白します。

今まで私の人生を導いてくださったEbenezer神様に今日も明日も主の中で平安と喜びを享受しました。また、永遠な天国で導いてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。ハレルヤ!

ヤコブよ、あなたを創造された主は／イスラエルよ、あなたを造られた主は／今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず／炎はあなたに燃えつかない。わたしは主、あなたの神／イスラエルの聖なる神、あなたの救い主。わたしはエジプトをあなたの身代金とし／クシュとセバをあなたの代償とする。(イザヤ書 43:1~3)



【信仰コラム】

誰が似非キリスト人なのか？

“聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。”(ペトロの手紙二1:20、21)

私達が物事を当て推量で判断すると誤判するかもしれません。誤判しても問題にならない事がありますが、重大な問題になってしまう事があります。人の一生だけではなく死んだ後の運命にまで決定的に重大な影響を与えることがあります。それは信仰です。しかし、人が必ず知るべきのことは救いに至らせる信仰とそうではない信仰があるという事実です。いかなる宗教を信じ、いかなる対象を崇め、いかなる教理を信じるかにかかわらず、信じさえすれば全てが救いを得るのではないからです。従って、救いに至る信仰が何であるかを認知することより重大なことはありません。‘きらめくとして金ではない’という格言があります。キリスト人の中にも似非キリスト人がいます。似非キリスト人とは外面は同じのように見えるが実際は全然異なることを意味します。聖書はその人が誠なキリスト人であるか似非キリスト人であるかを選別する試金石でありバロメータであります。

第一、救いの真理について聖書に記録されたお言葉に一致しない自分の意見を加える人は似非キリスト人です。

救いの真理は神様が決められました。救いの真理については聖書に記録されたお言葉に自分の意見を加えることが許されていません。人が変えることができません。有名で力のある人だとして変えることができることはありません。会員が多い教団の指導者だとして変えることができるものではありません。国際的な団体で数多くの人を集めて決議し宣言するとして変えることができるものではありません。他の宗教の教理や儀式をキリスト教に加味してキリスト教の本質を濁し混雑にすることを断固として排撃すべきです。聖書に明白に掲示された救いの真理をその通りに言わず、自分の意見を加え福音を歪曲する人が彼がキリスト人だと言っても実は、似非キリスト人です。

第二、救いの真理を二重言語を使いながら曖昧模糊に言う人は似非キリスト人です。

正統信仰を持っているキリスト人は救いの真理を模糊に言いません。救いの真理については明らかに、断固として言います。聖書通りに信じ、聖書通りに言うからです。聖書には救いに関して断定的に記録されています。“イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。”(ヨハネの福音書14:6)、”この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。”(使徒言行録4:12)と明らかに記録されました。神様の子供は全ての人間を意味することではなくイエス様を

救い主として信じ迎接して生まれ変わった人々だけを意味します。神様の御子であるイエス様がこの世にお越しになったのはサタンの子になってしまった罪人達が神様の子供になるようにするためです。神様は子供達を天国に導き、サタンは自分の子を地獄に導いています。聖書のどこにも教会が愛、平和、正義という共通の目標のなかで一致をかなえるよう命令したお言葉はありません。キリストの中で聖三位一体である神様を愛し、仕えることに一致して福音を述べ伝えることに一致することが聖書が命じる一致であります。宗教多元主義者達は救いに関して、天国と地獄に関して、宣教に関して二重の言語を話し聞く人を混同させます。聖書通りに信じなく聖書通りに話さないのもそのようなことを普通に話すのです。聖書は救いに関してとても明瞭で断固として話しています。イエスキリスト以外には救いの道がないと宣言します。

救いに関する真理を言う時、誠なキリスト人は聖書通に信じ、聖書通りに話します。聖書と一致しない言葉を話す人とそのような人を擁護したり美化する人は似非キリスト人です。皆さんは誠な聖徒として救いの福音を聖書通りに信じ、聖書通りに話しながら広く述べ伝えてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

本文をまた見ます。 **“しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜わった神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。”**

使徒パウロは言うのを “私になったことは神様の恵みからなったのである。” と告げました。 “私になったことは神様の恵みからなったのです。” という言葉は驚くべきで大きい変化を受けるようになった人の証です。 “私になったこと” という言葉には次のような内容が入っています。

第一、前に私は罪人だったが今の私は義人になりました。 私が義人になれたことは神様の恵みからなったのです。

第二、前に私は世の中の人だったが今の私は聖徒になりました。 私が聖徒になったことは神様の恵みからなったのです。

第三、前に私は悪魔の子だったが今の私は神様のお子さんになりました。 私が神様のお子さんになったことは神様の恵みからなったのです。

第四、前に私は地獄の民だったが今の私は天国の市民になりました。 私が天国の市民になったことは神様の恵みからなったのです。

“神様の恵みからなった。” と告げたがここで言う神様の恵みとは何ですか？ イエスキリストにあってくださる神様の恵みを言います。 もっと詳しく言えばイエスキリストの死と復活による恵みです。 イエスキリストを信じる者にくださる神様の恵みです。 “私になったことは神様の恵みからなったのです。” というお言葉の意味を完全に悟って言う人から現われる特徴があります。

第一、幸せな心を持って生きて行きます。 事毎に嬉しくて感謝した理由を捜し出します。 第二、試みに入らないです。 神様の恵みに変化を受けたことを思えばどんな状況も乗り越えることができます。

第三、なかなかのことでは恨みや是非をしないです。 雅糧を持って他人を理解します。 雅糧と言うのは深い考えと寛大な気立てを意味します。

聖徒の皆さんはイエスキリストを信じるようになったことがどのようにしてできた事なのかを考えて見てください。 皆さんが率直に答えたら専ら “神様の恵みです。” というようになるでしょう。

人がどのようにしてイエス様を信じるようになるのか説明するために我が国に福音を伝えようと来て行って大同江辺で殉教した トーマス宣教師のお話をよく見ます。トーマス宣教師は1839年イギリスで生まれて 24歳に牧師の按手を受けてその年にロンドン宣教会の派遣宣教師で中国の上海に行きました。 彼は 1865年に朝鮮宣教のためにペンリョン島の付近の島を船で2ヶ月半分の間に回りながら 漢字聖書を分けてやって福音を伝えた後また北京に帰りました。

神様の恵みです。

翌年 8 月 9 日に彼はアメリカ商船 ‘ジェネラルショウモン’ 号の商船として 2 回の朝鮮宣教に上がりました。 当時我が国は大院君の鎖国の政策でキリシタンに対する迫害が極甚でした。 船は平壤に行くために大同江を出発しました。 船が 8 月 21 日 ‘捕吏’ に着く時に住民たちが船に上がりました。 この時の分けてやった聖書が 5 百余冊もありました。 ショウモン号は北上してソックホソングまで行って四日を泊まる時 100 冊の聖書を住民たちに分けてやりました。 ソックホソングから晩境台まで至るようになると緊張感が浮かびました。 ここで船長はトーマス宣教師の強硬な挽留にもかかわらず朝鮮人の李益賢を船に抑留したしここに朝鮮軍事が攻撃を敢行しました。 船長が大砲をうって防御する間に水が減って船が座礁しました。 この時朝鮮軍人がうった火の矢によってショウモン号は炎に燃えて包まれました。 その中でもトーマス宣教師は両腕を高くあげて “イエスキリスト” と叫んで聖書を人々に投げました。 服に火が付いたトーマス宣教師が泳いで出ている途中に生け捕りされました。 トーマス宣教師は彼を打ち首にしようとしていた朴春権に聖書を与えました。 トーマス宣教師は 1866 年 9 月 3 日に 28 歳の若い年で殉教の血を流しました。 それから 24 年がすぎさった 1890 年にマペツ宣教師がアメリカから韓国に派遣されて来ました。 一度はマペツ宣教師が伝道してからひどく撃たれて意識を失って倒れたがバックホングズンが彼を振って起こしました。 バックホングズンは満洲でロス牧師に洗礼を受けた後福音を伝える中なのでマペツ宣教師を自分の家に連れて行って信仰の同志を集めました。 彼らはキム・ソング、ツェチリヤング、サキャンチョウである。 マペツ宣教師が質問するのを彼らが誰に伝道を受けたかとたずねました バックホングズンが答えるのを “彼らはトーマス宣教師が大同江のスック島で斬首される場面を見たしあの時トーマス宣教師が投げ振った聖書を読んでイエスキリストを信じるようになりました。” と言いました。 マペツ宣教師はこの四人と力を合わせて活発に福音を伝えだし教会堂も建てるようになりました。こんな事を考えて見る時に福音を伝える事は難しいが一方でたやすい事です。

“神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。” この消息を人々がきかせることが伝道です。 “イエス様を信じてください。 罪の赦しを受けて天国へ行くようになります。” これが福音です。 神様のお言葉、福音には力があってきく人を変化させます。 伝えることは私たちの任務できく人が信じさせることは神様の仕事です。 神様の恵みが臨んで福音を信じさせてくれます。 私たちもこのように神様の恵みで福音をきいて信じるようになりました。 だから私たちもパウロ使徒のように “私になったことは神様の恵みからなったのです。” と証して告白するようになるのです。

使徒パウロはまた言うのを “私がたくさん苦勞したがただ私とともになさった神様の恵みにしたのであるから。” と告げました。 神様の恵みに変化された人の言い替えれば義人になって、聖徒になって、神様のお子さんになって、天国の市民になった人は神様を仕える事に力をつくすようになります。 神様を仕えるには苦勞が付きます。 神様を仕える事で苦勞する分量はまったく同じではないです。

神様を仕えて福音を伝えるにも苦勞するくらいが違います。 福音が伝えない国と民族に行って福音を伝えようとすればたくさん苦勞するようになります。

ハドソン テーラー宣教師の生をよく見ます。 彼は 1832 年にイギリスで出生したし、17 歳の時に心を建てました。 彼は中国に行つて福音を伝えることに決心して医学の勉強をしました。 そして 22 歳の時の 1854 年 “中国福音伝道協会” によって派遣されて中国で伝道の活動をした後イギリスに帰って中国内陸伝道のために内地会を組織してまた中国に行きました。 中国人は西洋人を見れば逃げました。 それで彼は中国人の服を着て髪形も中国人のようにさせました。 住む所も食べる食べ物も中国人と同じにして伝道をしました。

彼の宣教の使役に大きい苦勞が迫って来ました。 宣教費の後援が切れて宣教活動には成果が見えなかったです。 絶望感が彼の心を満たしている時に彼はヨハネによる福音書 15 章に記録されたぶどうの木と枝に対するお言葉を深く悟るようになりました。 イエス様に付いているだけで神様が供給してすべての必要を満たすのが分かるようになりました。 その日から神様に全面的に頼って任せるので心に安息を享受しながら働きました。 そして福音の使役に驚くべきな発展があるようになりました。 彼が始めた内地の宣教会は 30 年が経つと中国の各城ごとに宣教師を送って福音を伝えるようになりました。 アメリカ、スウェーデン、ドイツ、オーストラリアまで彼の宣教会の支部を建てて中国の宣教を支援する宣教師を募集して訓練したがその数が千人に至りました。 彼が劣悪な環境で献身的な宣教活動をするうちに長女と末の子と妻を病気で失う悲しみを経験しました。 彼は言うのを “人々が福音が分からなかったまま死んで行っています。私に千個の命が与えられても中国の宣教に使います。” としました。 彼は 72 歳に中国の一小さな村で生を終えて中国の地に骨を埋めました。

神様を仕えて苦勞することは身で苦勞することのみを意味するのではないです。 心を使う手数もあります。 才能を提供する手数もあります。 社会的地位を使う手数もあります。 苦勞して得た財物を差し上げることもあります。 ところでこんな手数をするのが皆神様の恵みです。 実は神様の恵みなしには苦勞する心も生じないで熱心と忍耐も生じないで神様を仕えて財物を差し上げる楽しさも生じないです。 神様が賞を大きくくださって将来大きい光栄と楽しみに参詣するように決心した人に苦勞する恵みをください。

聖徒の皆さん 皆が使徒パウロのように “私になったことは神様の恵みからなったのである” “私がたくさん苦勞したが ただ私とともになさった神様の恵みでしたのであるから。” その告白して証するように願います。